

第47回環境審議会計画部会での委員の発言趣旨及び県の考え方・対応等

番号	発言要旨	県の考え方・対応等
1	「地域資源」に文化や遺産は含まれるのか。含まれるのであれば、その旨が理解できるようにすべきではないか。	「地域資源」には文化や遺産も含まれている。本文の中で、理解しやすい表現に整理をしたい。
2	「快適空間」という言葉について、「環境を守り育てる地域づくりの推進」の項目で使う場合は、別の表現の方がいいのではないか。	御意見を踏まえ、骨子(案)において、「快適空間の充実」を「快適な環境の整備」に変更をしている。
3	環境基本計画の評価について、計画期間の終了後にアンケートを取り、県民に評価されているのかがわかる項目づくりする方法が取れないのか。	御意見を踏まえ、環境基本計画について、県政モニターアンケートを活用すること等を前提に、大項目ごとの指標を設定することとしている。
4	新型コロナウイルスの感染症による影響を全面的に出して施策を変えたというところに違和感を感じた。見直しとして一番大切なのは、世論とか県民の意識ではないか。	
5	「見直しに際しての主な視点」において、新型コロナウイルス感染症からのグリーン・リカバリーとあるが、コロナからの経済回復のために、施策が大切だというところに違和感がある。	国の計画や現在策定中の県の総合計画等においても、新型コロナウイルス感染症の影響について考慮されていることから、整合を図りながら、計画の素案を考えていきたい。
6	新型コロナウイルス感染症の影響があるとすれば、「エネルギーの使用量」とか「廃棄物の排出」以外に何かあるのか。	

番号	発言要旨	県の考え方・対応等
7	生活環境の保全の施策で、前回の計画部会の中で、「D評価が多く満足度が低いので施策を見直してみてもどうか」という質問をしたが、検討状況はどうか。	生活環境分野は規制が主になっているため、施策の変更は困難だが、指標を整理したほか、県政モニターアンケートを活用して満足度を測ることとしている。
8	使い捨てマスクや個人用防護具、コロナの治療に使うシーツも全部捨てており、医療廃棄物が増えている。国はある程度加熱すればウイルスは死ぬと説明しているが、業者がシーツをクリーニングしてくれない状況もあるので、情報発信していく必要がある。	国からも、手順を踏んで引き取れば再利用可能であるとの通知が出ており、県としても、関係団体に通知するとともに、香川県産業廃棄物協会等との協議などを行っている。今後も、的確な情報発信などにより、理解が進むような取組みを進めていきたい。
9	「脱炭素に向けた”まちづくり”推進」が小項目になっているが、他の小項目は「太陽光発電の導入推進」や「都市緑化の推進」等、具体的な内容となっている。小項目にはもう少し具体的な言葉が入るのではないか。	今後具体的な施策を考えていく中で、適当な表現があれば検討をしていきたい。
10	新型コロナウイルス感染症が流行してから、パンを販売するときに、ビニール袋に個別に包装されて、その結果、家庭でもたくさんごみが出てくるが、それは再利用できるのか。	プラスチック製容器包装として回収されても汚れがあると業者が引き取らず、リサイクルできない。このような課題を解決するため、今年度、市町や事業者に対して、プラスチックごみの実態調査をしており、問題点を取りまとめ、今後、本県の実情にあった取組みを推進していく。
11	買い物袋以外のごみが増えている。マスク、防護服やナイロンとかがものすごく増えるのではないか。	香川県では、家庭からの廃棄物の量が増えたというデータが出ていないが、今後も市町と連携してデータを取りながら取り組んでいきたい。
12	今までは、省エネに努めていたが、換気等の相反する行動も必要になる。脱炭素に向けたライフスタイルとして、換気しても省エネになるように、ウォームビズ等を進めるとよいと思う。	御意見を踏まえ、新しい生活様式にも対応した形で、脱炭素に向けたライフスタイルや省エネの推進に取り組んでいきたい。
13	野焼きについて、畑のごみは燃やしてもいいのか。	原則的に野焼きは禁止されているが、農業に伴うものは、一部例外的に認められているものもある。認められている場合でも、風向き等に気をつけるよう指導を行う場合もある。